



アートで障がい者の夢を叶える世界を作る パラリンアート活動について

一般社団法人障がい者自立推進機構 代表理事 松永 昭弘様

創業者代表理事の「松永 昭弘」は2001年～2016年までの15年間、訪問リハビリマッサージの会社を運営してきました。訪問リハビリでは寝たきりの障がい者への施術も一定数あり、その時に会う障がい者の中に、絵画を描く方々がいました。その作品からは強いメッセージ性を感じるような、独創的な構図や色使いがあり感動を覚えました。しかし、残念なことにはその絵画の出口は無く、描いては溜まるというのが現状でした。

そこから、障がい者の社会参加や経済的自立について調査し、何とかこうした方々のサポートができないものかという事と、生きがいとして社会とのつながりをもっと作れないか、という事を考えるようになりました。

2007年に障がい者アート事業=パラリンアート事業を立ち上げ、複製絵画レンタルモデルを企画し、障がい者の社会参加と経済的自立を推進し活動を開始しました。

その後2012年に、社団法人障がい者自立推進機構を設立し、社団法人では公益的なイベント主催やアーティスト拡大事業を行い、資金調達、企画、営業、管理等運営に関する業務を全面的にサポートしました。

パラリンアートの仕組み

パラリンアートと障がい者アーティストが「ひとつのチーム」になり、アート事業を行っています。



継続活動をする中で、世の中の環境が変わり始めました。2007年当時は、CSR（企業の社会的責任）という理念活動が啓発され始めた程度でしたが、その後、SDGsの世界目標が啓発されるようになり企業の意識に変化が見られるようになりました。その数年後にはESGという評価基準（非財務情報による企業価値算定）が啓発され、上場企業に企業価値評価が、ESG活動のスコアにて可視化されるようになりました。

そのような社会の環境変化に伴い、パラリンアートの協賛企業数も年間360社を超えるまで成長をすることが実現し、約500名のアーティストの活躍の場が徐々に拡大してまいりました。



協賛企業増加の背景 - 01 SDGs / ESG

SDGs / ESG運動型のPR活動を目的にご活用頂く企業様が増加しています。特に、人に関わる領域である赤色群の活動としてご活用いただいています。



パラリンアートは「障がい者がアートで夢を叶える世界」の実現を目指し、社会保障費に依存せず、民間企業と個人の協力により、障がい者支援を継続できる社会貢献型事業を行っています。障がい者の多くは、社会参加への周囲の理解の少なさや、金銭的困窮などの課題を抱えており、これらの課題を解決するための仕組みは依然として不足しているのが現状です。

パラリンアートは、障がい者アーティストの作品（絵画・デザイン等）をさまざまな企業・団体に活用してもらうための橋渡しの役割を担っており、また彼らが持つ才能をひろく世間に発信するとともに、作品を採用されたアーティストや障がい者施設へ報酬を支払うことで、彼らの社会参加と経済的自立を推進しています。

パラリンアートは障がい者の自立推進を支援によって進行するだけでなく、彼らの才能を発揮し、彼らが挑戦する場所を生み出し続けていきます。

パラリンアートの取り組み

